



図 3.4.2 有明海の底質分布 (中央粒径値) の変化

有明海では、水深0m～5mと40m以深の面積が減る一方、水深10m～30mの分布が増え、水深が平均化している (別添資料 11)。

また、海底堆積物の珪藻類や赤潮シストの変化等から、有明海の富栄養化は少なくとも40～50年前から進行したと考えられる (図 3.4.3)。熊本沖 (潮目のところ) では硫化水素臭を伴う泥が20～30mm堆積し (別添資料 12)。また、大浦沖・諫早湾口では1～4mのシルト質の底泥が堆積している。堆積速度 (年間約1～5mm) からみて底質の泥化は以前 (熊本沖では20～30年前) から始まったとみられる (別添資料 13)。

